

<様式>

学校名	山形市立みはらしの丘小学校 山形市みはらしの丘三丁目4番地 TEL 023-689-0181 FAX 023-688-2333	校長 高橋 和久	
		研究主任 木村 彩	
研究主題	自ら考え、深く学び合う子ども（2年次） ～ICTの効果的活用と資質・能力の育成～		
主題設定の理由	本校では、教育目標を次のように掲げている。 <table border="1" data-bbox="215 873 1417 969"><tr><td>夢と感動 勇気と感謝 みはらしの丘の未来を創る 生きる力にあふれる子どもの育成</td></tr></table> <p>現在みはらしの丘小に通う子どもたちが、成人し社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎える。生産年齢の人口減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等と、変化の予測が困難な時代になる。このような社会の変化に受動的に対応するのではなく、主体的に関わり自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となってほしいと考える。そのためには、資質・能力を確実に育成することのできる校内研究にしていきたい。多様な子どもたち一人ひとりに、より確実に資質・能力を身につけるには、ICTを活用した個別最適・協働的な学びが有効である。また、ICTを効果的に使うことで、学びの質が高まり、深い学びにつながっていくことが期待される。そして、様々な問題において他者と協働し、その力を發揮して未来を切り拓いてほしいと考える。</p>		夢と感動 勇気と感謝 みはらしの丘の未来を創る 生きる力にあふれる子どもの育成
夢と感動 勇気と感謝 みはらしの丘の未来を創る 生きる力にあふれる子どもの育成			
授業づくり視点	<p>◆視点①【主体的な学び】</p> <p>(例) ・児童が意欲的に取り組めるようなICTの選択 ・魅力的な課題設定(拡大して提示 など) ・児童が自分の学びを実感できるようなふりかえりの実施 など</p> <p>◆視点②【対話的な学び】</p> <p>(例) ・ICTを活用した協働的な学び合いのコーディネート ・言語(音声・文字)を用いて思考し、相手に分かりやすく伝えたり、相手の考えを理解しながら聞いたりして、伝え合う。 ・子ども同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手がかりに考える など</p> <p>◆視点③【深い学び】</p> <p>(例) ・知識と知識を関連付けて、新しいつながりや関係に気付く ・必要な情報を選び取り、自分なりの考えを持つ。 ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識を相互に関連づけてより深く理解する。 ・問題を見いだして解決策を考える。</p> <p>※必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではないので、単元などの学習のまとまりの中でICTをどのように活用できるか検討していく。</p>		

<p>校内研究の方法</p>	<p>(1) 研究授業について</p> <p>① 学年部授業研究会 (学年部研) 年3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部1名が授業を行う。(学年部の教員全員が参観する。) ・事前研、事後研は学年部と希望者で行う。 ・学年部研授業者は、授業前に「授業の視点」を作成・配付し、研究の視点に沿って授業を見合えるようにする。 ・外部から講師の先生を招き、指導していただく。 <p>② 学年授業研究会 (学年研) 各学年・支援学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年部研を行わない教員が授業を行う。(学年の教員全員が参観する。) ・事前研、事後研は学年と希望者で行う。 ・支援学級は、事前に参観することを担任に伝え、必要に応じて参観する。 <p>③ 参観について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当の学年部研、学年研のほかに、他学年部の授業を一つ以上参観するようにする。 <p>(2) 資質・能力と教科について</p> <p>それぞれの教科の資質・能力の育成を目指しながら、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力と論理的思考力の育成に重点を置く。また、ICTの活用を通して情報活用能力も共につけていけるようにする。</p> <p>研究は教科をしばらず行うが、いろいろな教科とICTの効果的活用の関係について検討するため学年部研は別の教科である方が好ましい。学年研はこの限りではないが、学年部研と同じ教科で行う場合、単元は別にする。</p> <p>(3) まとめ方について</p> <p>「研究通信」を作成し、研究集録に載せる。3つの視点について話し合う。</p> <p>(4) 校内研究全体会・研修会</p> <p>5月2日(火)第1回全体会 校内研究の計画と進め方(概要をもとに)</p> <p>7月25日(火)校内研修</p> <p>12月25日(月)校内研修</p> <p>→研究収録作成計画は12月中に連絡、今年度の成果と課題は2月の全体会で報告する。</p> <p>2月19日(月)第2回全体会 今年度の成果と課題、来年度研究について</p> <p>○教師のニーズや教育課程等に併せて、ミニ研修会を随時行う。</p> <p>○月一回程度、研究推進委員(必要なら情報主任も)が集まり、実践の共有・発信と情報教育の推進の話し合いを行う。</p>
<p>研究計画と目指す</p>	<p>【1年次】</p> <p>○校内の体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報主任も加わり、研究推進委員会で校内のICTを使って何ができるか検討する。 <p>○カリキュラムの検討(教科部会・各学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度のカリキュラムとタブレット使用状況をもとに、ICTを効果的に活用できそうな教科や単元、学習内容を探る。 <p>各教科の授業</p> <p>総合的な学習の時間…ICTを活用した地域学習</p> <p>○校内研修会の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進校の実践事例について(カリキュラム・マネジメント中心に) <p>○学年で育成をめざす資質・能力の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は資質・能力(言語能力・論理的思考力)を重点として取り組み、ICTを取り組む。 <p>○指導案検討 (ICTの活用を明記する)</p> <p>☆学びの中でICTを日常的に取り組む。</p>

- ・計画を立てる
- ・一覧表にする
- ・月曆に載せる

子どもの姿

【2年次】

○実践を職員間で共有し、活用場面を広げる。

- ・ICT を活用した単元を学年カリキュラムに明記する。

○資質・能力を発揮・自覚させ、繰り返し育成する。

- ・ICT の効果的な活用により、論理的思考・表現力を育成し授業を行う。

☆ICT の活用と学びの幅が広がる。

【3年次】

○学校で ICT の効果的な活用場面についてまとめる。

- ・3年間の取り組みを振り返り、効果的な活用場面と今後の可能性について話し合う。

○学年で育成をめざす資質・能力の話し合いと振り返り

- ・ICT を系統化し、日常化していく。

☆ICT をツールの選択肢の一つとして使い、学びに生かす。